教育のユニバーサルデザインの視点や、

一人ひとりのニーズに応える視点を広げましょう！

【演習】

（ねらい）教育のユニバーサルデザインについてこれまでの実践を振り返るとともに、「指導の工夫」、「個別の配慮」、「個に特化した指導」の視点を広げる。

【演習①】

日頃の授業において、視覚化・焦点化・共有化の視点を取り入れている場面はありますか。支援教育リーフレットVol.3－Ⅰの「授業のユニバーサルデザイン」を参考に、具体的な取組を記入しましょう。

また、これらの視点を取り入れたことで良かったことや、気付いたことも振り返り、共有しましょう。

視覚化

焦点化

共有化

良かったこと、気付いたこと

【演習②】

　　次のクラスの様子から、あなたならどこに教育のユニバーサルデザインの視点を取り入れ、より良い環境を整えて学びにつなげていこうと思いますか。支援教育リーフレットVol.３-Ⅰを参考に３つの視点を意識しながら考えてみましょう。その際、注目した視点についても共有してみましょう。

**小学校４年１組の様子**

活発な子どもが多く、元気のよいクラスです。チャイムが鳴りましたが、立ち歩いている子どもやおしゃべりを続けている子どもがいます。先生が入ってきて、「チャイムが鳴ったらどうするんだっけ？」と言葉を掛けました。子どもたちの反応は様々です。

図工の授業が始まりました。黒板には、今日の目標や使用する材料・用具、手順等がイラストや写真とともに次々に提示されていきます。早く制作に取り掛かりたいのか、子どもたちは落ち着かずキョロキョロと周りを見ています。

10分間の導入を終え、先生が道具を準備するように指示を出しました。道具置き場に殺到する子どもたちがいる中で、「先生、何を準備すればいいの？」と質問してくる子ども、図工の教科書を読みふけっている子どももいます。先生は「ちゃんと並ぼう」「わからないことは、周りの子に聞いてみよう」と言葉を掛けています。
　制作が始まりました。図工室では大きな作業用机を4人で囲んで座っています。机の上に材料や道具をいっぱいに広げて、子どもたちは思い思いに制作を進めています。先生は机を回って個別に言葉掛けをしています。

30分間の制作時間を終え、片付けの時間になりました。子どもたちは、片付けをしながら、お互いの作品を見せ合って楽しそうな様子です。中には、まだ熱心に制作を続けている子どももいます。チャイムが鳴ったので、子どもたちは一旦手を止めて号令となり、授業が終了しました。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （授業のＵＤ） | （教育環境のＵＤ） | （人的環境のＵＤ） |

取り入れたい教育のユニバーサルデザインの視点

注目した視点

【演習③】

　　演習②で取り上げたクラスには、「個別の配慮」を必要とする児童も在籍しています。次のAさんについて、演習②で検討した教育のユニバーサルデザインを取り入れた上で、どのような「個別の配慮」が必要か支援教育リーフレットVol.３-Ⅱを参考に考えてみましょう。

Aさんは、４年１組に在籍する、理科の実験と絵を描くことが好きな男子です。物知りで、自分が納得するまで物事を追求するタイプです。聴覚に過敏性があり、授業によっては耳をふさいだり、廊下に出て行ってしまったりすることがあります。また、授業のねらいがつかめず、自己流で進めてしまうこともあります。そのため、得意な図工の作品を完成できずに終わることもしばしばあります。また、整理整頓が苦手で、物を無くすことや、友達の物を間違って使ってトラブルになることも多く見られます。その際は、謝るより先に手が出てしまうことがあり、トラブルの理由を聞いても、うまく説明することができません。

Aさんに必要な「個別の配慮」

【演習④】

　　この演習では、「チームで考える視点を広げる」をテーマに考えます。

演習①～③のように、児童・生徒の指導や支援について考えたり迷ったりした際に、誰に、どのように相談していますか。チームで取り組んだことや自分の身の回りのチーム体制について振り返ってみましょう。

　　例：学年の教員、養護教諭、コーディネーター、スクールソーシャルワーカー等